

夏の勉強会報告

世話人（天野・大槻）

1981年8月28日～30日の3日間にわたり、構造地質研究会恒例の夏の勉強会が、茨城大学大子合宿研修所で行なわれた。内容は次のとおりである。

○特別講演

藤井陽一郎（茨城大・理）：私の地震観と地球観。

BARBER, A. J. (London Univ.) : Significance of the Moine Thrust in the crustal structure of the Scottish Highlands.

○一般講演

鈴木茂之（広島大・理）：舞鶴地帯の構造作用。

坂井 卓（九大・理）：東九州四万十帯の古江延岡衝上と大構造。

木村 学・紺谷吉弘・保柳康一（北大・教養）：上支湧別構造線（予報）。

大槻憲四郎（東北大・理）：ユーラシアプレート内応力場を創る。

鈴木尉元・小玉喜三郎（地調・燃料）：房総半島北部の上総層群の堆積と構造。

小玉喜三郎・鈴木尉元（地調・燃料）：茨城県南西部の第四紀地殻変動。

角田史雄（埼玉大・教養）：南部フォッサマグナ地域の断層地塊と震動地塊。

宇井啓高（富山大・教育）：呉羽山断層について。

藤田至則（新潟大・積雪災害研）：地すべり崩積土の断層の特性——1980～1981年の地すべりの4例から——。

谷口 彰・国香 聡（島根大・理）・飯川健勝（小千谷西高）・三梨 昂（島根大・理）：西南日本の地殻の水平変動と被害地震の関係について。

三梨 昂・小室 聡・藤井伸治（島根大・理）：層厚急増部付近に生ずる反転褶曲の形成について。

○シンポジウム*

東北日本の新生代テクトニクス

○エクスカージョン（8月30日）

大槻憲四郎（東北大・理）・田切美智雄（茨城大・理）・桑原 徹（筑波大・地球）の3氏の案内で棚倉破砕帯の巡検を行った。

なお、本研究誌には、特別講演および一般講演のうち投稿された5編をおさめるとともに、シンポジウムに関連した論文9編をおさめた。

例会参加者は次のとおりである。

木村 学（北大）、宇井啓高（富山大）、鈴木茂之・矢野孝雄（広大）、坂井 卓（九大）、濱

* シンポジウムの講演内容については、シンポジウムの項で報告する。

崎英作（日本工営），大槻憲四郎・佐藤比呂志・石井和彦（東北大），角田史雄（埼玉大），植村武・国安 稔・藤田至則（新潟大），桑原 徹（筑波大），桜井 賢（茨城県），三梨 昂・国香聡・谷口 彰・寺見保正・野藤孝裕（島根大），鈴木尉元・小玉喜三郎・栗田泰夫・佃 栄吉・衣笠善博・垣見俊弘（地調），品田正一（秋田大），二階堂章信（大子一高），笠井勝美（大子二高），飯川健勝（小千谷西高），上野一夫（綾瀬高），A. J. BARBER（ロンドン大），藤井陽一郎・田切美智雄・藤縄明彦・天野一男・栗原秀平・佐々木正久・富田恵子・中村康雄・吉田英人・楠本泰平・北沢幸人・立川考志（茨城大）